
振り向かない背中

神龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

振り向かない背中

【Nコード】

N0264D

【作者名】

神龍

【あらすじ】

私は先輩が好き。だけど、先輩のことを全部は知らない。だけど、私だけが先輩を理解していると信じたい。

私には好きな人がいる。その人は、同じ高校の一個上の先輩である。

その先輩は、無表情でいつも何を考えているか、みんなわからないらしい。だけど、私には、なんとなくわかる。

例えば、部活のテニスの時とか……

——あ、明後日の試合のことを考えてる。

先輩は、試合が近づくとゲームの時に空を見上げるし。

——このあとの事を考えてる。

キャプテンでもある先輩は、休憩時間の時にボーッと顎に手を当てながらコートを見てる時は練習内容を考えてる。

これくらいなら、毎日注意深く見てたらわかる。私ができるの

は、感情……かな？

——あ、今日はちょっと機嫌がいいみたい。何かあったのかな？

いつもと同じように見える無表情でも、どこか雰囲気違って、この違いがわかるのは、私くらいだと思う。

だけど、やっぱりわからないことのほうが多い。

所詮、私が知っている先輩は、部活八割、その他の学校での間二割で、プライベートなどはまったくわからない。

——彼女がいるのか……。

表情からはまったくわからない疑問。これが、私の不安の種。

もしかしたら、機嫌の良い日は彼女に会えるからかもしれない。

しかし、私にそれを聞き出す勇氣はない。

だけど、夢を見続けるのも良いかもしれない。

だって……

「先輩！ 頑張ってください！」
って、試合の時に叫ぶと。

「……」

振り向かないけど、手を振ってくれる。私が叫んだ時にだけ。

——ねえ、先輩。今日の試合の後に、私の気持ちを伝えてもいいですか？

〈fin〉

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0264d/>

振り向かない背中

2010年12月4日14時26分発行